

在宅取組型+体験活動参加型（小学校）

学校名等	大野町立南小学校
実施日時	夏休み期間中の1週間
会場	学級生の各家庭
参加人数	54名（家教学級生及び児童）
学習課題（分野）	親子でフットマッサージ
運営者の願い	これまでの在宅型の取組を見直し、夏休みの間に親子のコミュニケーションが図れる活動を企画した。ハグは嫌がる子がいたり、一瞬で終わってしまったりするため、その子に応じた、ある程度の時間がかかる活動として、フットマッサージを取り入れた。今年だけでなく、今後も続けられるようにとの願いも込めた。

学習の内容

<取組内容>

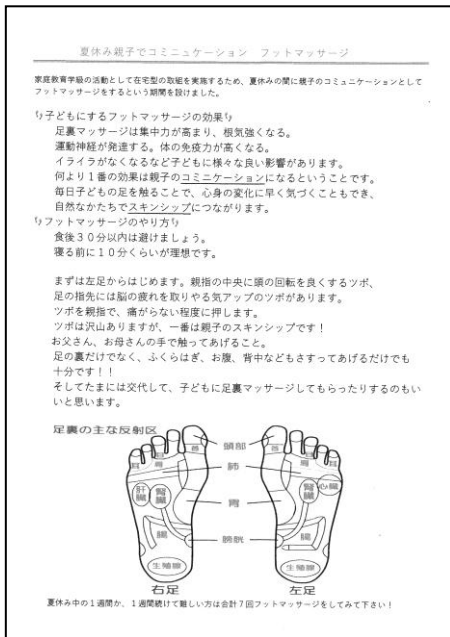
役員会で話し合う中で、子どもが成長するにつれて、体に触れたり、スキンシップをしたりすることが、以前よりも減っていることが話題になった。そこで、時間の取りやすい夏休みの期間に、昨年度のお手伝いに換えて、「親子でフットマッサージ」を取り上げることになった。

夏休み中の1週間（各家庭で実施日を設定してもらう）、親子で足裏のマッサージをする。具体的な方法は、児童には写真資料を用いて、簡単なやり方を説明した。保護者にはプリントを作成し、お願いと共に配付した。結果と親子の感想を書いたカードは9月1日に回収し、役員でまとめた。また、9月7日には家庭教育学級「親子で体操」を開催し、内容の一つに「子どもたちが保護者をフットマッサージ」する時間を設けて実施した。

← 案内プリント

子どもにフットマッサージをする効果や、具体的な方法、ツボの位置などが載せてある。

↓ 記録カード



※夏休み明けに回収、まとめを作成

<実践のポイント>

- ・ある程度の時間をかけたコミュニケーションができる。
- ・子どもの体の変調がわかる。
- ・夏休みだけでなく、今後も活動が期待できる。

<アンケートから>

【子どもたちの感想から】

- とてもきもちがよかった。
- くすぐったかったけど、もっとやってほしい。
- お母さんがとても喜んでくれた。

【保護者の感想から】

- お互いに笑顔で良い時間でした。
- 普段できないその日の話をすることができました。
- これからも続けてできるといいと思います。



<無理なくコミュニケーションを図ることができる活動>

- 子どもが恥ずかしがることなく行うことができ、その他の変化にも気付くことができる。
- 子どもが保護者にやってあげることができる。



<実施期間以降の継続が期待できる活動>

- 子どもたちも保護者も、もっと続けたいという感想が多かった。
- 2月に調査したところ、7割弱の家庭が継続していることが分かった。



<体験型との組み合わせで、活動の意義が共有できる>

- 夏休み明けに親子体操を設定することで、その場でこの活動の良さを共有することができた。

